

# 布を重ね月を着こなす

- 宇宙服を再解釈した宇宙居住空間の提案 -

私たちが日常的に見ている「月」に暮らす時代に到達することはできるのだろうか。迷信のように思われてきた話であったが、近年「宇宙旅行」などすることが可能となり、夢物語が現実になりつつある。2027年ごろには、月面での居住計画がある。しかし月面というのは、まだまだ過酷な環境であり、住宅という機能はかなり重要なシェルターとなっていくだろう。

服は地域の環境を大きく指し示すツールである。服はシェルターとしての最小単位であり建築はその拡張ともいうことができるのではないか。宇宙でも同じように宇宙服があり、その拡張のような居住環境というものがあることで身体や生活のシェルターとなり、さらに地球上とは異なる新たな暮らしが営まれていく。

## 00. 宇宙の過去と未来 1981



## 01. 外環境から身を守るシェルター



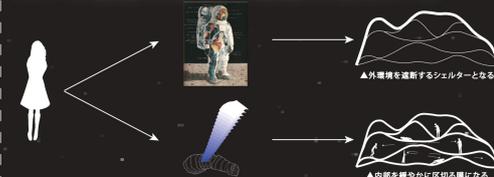
建築は外環境を遮断するシェルターである。雨を凌ぐために屋根をかけ、風を遮断するために壁を建てた。月では紫外線や温度変化から身を守るシェルターとしての役割が求められる。

## 02. 小型宇宙船 宇宙服



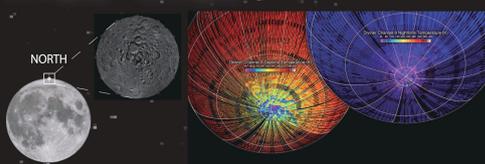
宇宙服は船外活動の際に着用するもので、服だけで守る小型の宇宙船である。役割として宇宙の真空状態、熱環境、宇宙塵などから身体を守るなどがある。気密、断熱等の為にナイロン、タクロン、アルミ蒸着マイラー、ゴアテックス等から成る14層もの布地から構成されている。

## 03. 宇宙服を拡張し建築に応用する



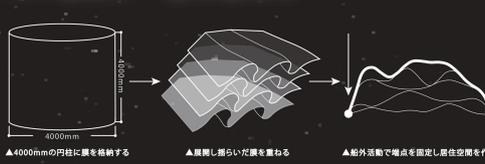
布を重ねていくように建築を構成する。層を重ねることで空間となり、外部から内部空間になる。重なった層によって内部は緩やかに区切られていく。月の過酷な環境から身を守るシェルターとなる。

## 04. 敷地 月の極地



月面の地形や環境は上記のようにほぼ解明されている。地球と同様に場所によって全く条件が異なる。今回の敷地はその中でも、北極地点とする。選択した北極地点は月の他の場所と比較し、温度変化が激しくない点や常に太陽光が当たる特性を持った土地である。

## 05. 展開し 膜を重ねる



4000mm×4000mmの円柱に膜を収納し、地球から打ち上げ月まで運ぶ。月まで運んだ円柱から展開し、揺らいだ膜を重ね合わせる。宇宙服を着用し重ねた膜の端点を地面に固定する。その後内部を圧し、居住空間とする。

## 06. 他人を感じ 緩やかに区切る



宇宙服は船外活動の際に着用するもので、服だけで守る小型の宇宙船である。役割として宇宙の真空状態、熱環境、宇宙塵などから身体を守るなどがある。気密、断熱等の為にナイロン、タクロン、アルミ蒸着マイラー、ゴアテックス等から成る14層もの布地から構成されている。

